

藤塚地区にぎわいづくり検討会 第1回 議事録【概要版】

日 時：令和4年4月25日 13:30～15:30

場 所：市役所本庁舎2階 第一委員会室

出席委員：宮原委員、今崎委員、櫻井委員、宍戸委員、東海林委員、平間委員、平館委員、渡邊委員、奥山委員、川邊委員、大黒委員

事務局：建設局長、公園整備課長、公園管理課長、観光課長、若林区海浜エリア活性化企画室長、宮城野区まちづくり推進部海浜エリア活性化担当課長

司 会：公園整備課長

1. 開会	阿部公園課長より開会あいさつ。
2. 委嘱状交付	委嘱状を机上交付。
3. 委員紹介	委員を紹介。
4. 局長あいさつ	千葉建設局長よりあいさつ。 (次の公務のため退席)
5. 座長選出	平館委員より、宮原委員の推薦。 委員全員異議なし。
宮原座長	座長よりあいさつ。 (進行座長)
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開・非公開：原則公開 ・議事録署名人の指名：宮原座長、今崎委員 ・座長代理の指名：大黒委員
大黒座長代理	座長代理よりあいさつ。
6. 議事	<p>(1)検討会の目的・進め方、(2)海岸公園(藤塚地区)の現状と課題、(3)にぎわいづくりにむけた基本的な考え方 小山公園整備課主幹より説明。</p> <p>(4)かわまちづくり支援制度 宇佐美仙台河川国道事務所工務第一課専門調査官より説明。</p>
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・初めに自己紹介を兼ねて、皆様の取組み、検討会との関わりやご意見を順に伺いたい。 ・私は宮城学院女子大学現代ビジネス学部在籍し、主に地域の資源を活かした地方交流に関する研究、震災後は観光による地域の復興、再生について研究をしている。仙台市の東部集団移転跡地の利活用の検討委員会、事業者の選定委員会の委員も務めている。 ・今回、藤塚地区においてこのような検討ができることを大変うれしく思っている。歴史的にも藤塚は閑上との関わりが大変深く、今回の整備方針では閑上地区も含めてにぎわいを考えていけるということで、楽しいかたちでのビジョンが組めたら良いと思う。 ・失われた自然環境も非常に大きいですが、時間がかかっても、自然が再生していく道筋を上手ににぎわいづくりの中で組み立てていければ。また、閑上で海浜植生の再生に取り組んでいる団体の方との交流ができればおもしろいと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・普段から地域の状態をご覧になっている皆様のご意見をお聞きしながら、検討会を進めて行きたいと思っている。
今崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・名取市さんと閑上丸を運営している。 ・私共の事業では、かわまちてらすを発着場とし、名取川河口まで15分程度の遊覧を行う予定で、来月7日には名取市長をお招きし、就航式を行う。土日は貞山堀を経由し、朝市までの運行を予定している。 ・将来的にはアクアイグニスと閑上がつながれば楽しい企画となると思う。
櫻井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・かわまちてらす代表と、朝市の代表も務めている。 ・今月の6日に貞山運河ネットを立ち上げ、今のところ会員100名。 ・私は閑上出身で、貞山運河を貞山堀と閑上出身の人は呼んでいたが、まさか政宗が作ったとは思っていなかった。実際は知っている人はたくさんいるのかもしれないが、それを伝える活動がうまくいかなかったのでは。 ・貞山運河協議会や各市町村の首長が集まった会議があったが、一向に進んでいない。行政に委ねるのではなく、我々地域住民が地域活動を通じて、行政に働きかけるということをしなければいけないと思っている。 ・朝市に関しては震災の2週間後に復活したが、先はどうなるか全く分からなかった。新しいことを始めるにあたっては、最初の一步の踏み出しが非常に大事であって、皆様と協力しながらやっていきたいと思っている。 ・かわまちてらすは、綺麗な堤防の整備など、国交省の非常に手厚い支援でうまくいったと思っている。東京から来たお客さんが、名取川の水の色と太平洋側の海の色と空の青色が3色全て違うと言って、非常に感動していた。今まで一度も感じていないことを言われ、実際、我々は地元の財産、価値を知らなかったのではないかと感じた。 ・今回、観光庁の補助申請を申請した。採択されれば、貞山運河でカヤックやゴムボートをやろうと思っている。 ・夢は、藤塚地区と閑上に歩行者自転車用つり橋を架けてもらって、仙台市と名取市が一緒にやっていくというもの。良い結果に結びつくよう活動していきたい。
宍戸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県漁業協同組合仙台支所は漁船漁業が中心で、震災以前は貞山運河でシジミ漁、井土浦にはウナギの漁業権がついており、ウナギの稚魚を放流して採捕していた。現在では仙台湾は全てノリ漁場となっており、ノリ養殖業を行っている。 ・今回の検討会は、シジミ漁とウナギの漁業権、ノリの漁場などもあるため、本事業で何か配慮いただきたいことがあると思ひ、参加させていただいた。 ・令和5年に漁業権の一斉更新事業があり、その際に井土浦の漁業権、漁場を変更して、貞山運河につけていただけないかという要望計画をしている。
東海林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・藤塚は昭和41年までは名取郡で、その後も渡し船等で閑上とつながっていた。我々が小さい頃は、通院も買い物もほとんど閑上だった。渡し船の船賃は一回払いではなく、藤塚の人は年払いであった。 ・震災で移転しなくてはならないことになり、平成27年にほとんどの家が移転したが、その時はこの先どうなるか分からず、知らない間に11年経ってしまった感じであった。 ・五柱神社を再建したいと言ったら、人が住んでいないのに神社を建てて大丈夫かという意見もあったが、材料を伊勢神宮の古材からもらい、仙台で製材して平成27年に再建した。神社だけは残さないと忘れさられてしまうという思

	<p>いで、これまでやってきた行事を今も欠かさず行っている。そうでないと、住んでいた方は、何もないところには来ない。神社があればお参りにいこうとなる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクアイグニスが藤塚地区に建ち、元々藤塚に住んでいた人も来ているが、「ここが藤塚なのか」「藤塚にあんな立派な建物が建つなんて」と言っ、以前の面影が分からないようであった。実際こういうことがなければ、到底建物が建つわけもなかった。何もないよりは人が来てもらえるのが良いが、昔はこうであったということが分かれば尚良いと思う。 ・アクアイグニスという立派なものが出来て、建物の上に乗って眺めた時に、草が生い茂っていて見栄えが悪い。アクアイグニスが開業するときまでに周りも綺麗になっていたら、もっと良かったと思う。
平間委員	<ul style="list-style-type: none"> ・4日前、4月21日にアクアイグニス仙台がグランドオープンし、昨日一昨日とオープン後初めての週末を迎えた。 ・来場者の数は正確に把握できないが、レジを通った数によるカウントはグラウンドオープン時、木曜日金曜日には約3000人、昨日一昨日の土日には約4000人という数字が出ている。 ・既に来場したお客様からは、嵩上げ道路からの横断歩道がない、閑上方面から来ると片側にしか歩道や自転車が通れる道が無いため、嵩上げ道路を横断して降りてくるために10分待った、こわくて渡れない等の意見があった。夜になると街灯がないという意見もあった。 ・最も多かったのがトイレの数が少ないという意見だが、この地区は下水道整備が無く、浄化槽を建物の地下ピットに埋めており、その許容を超えるトイレはどうしても作ることができない。 ・人を招き迎える上で、インフラ整備が大前提にあつて、その上で施設が成立し、そして人のにぎわいが起きるものと考えている。我々民間事業者としては、どうしても収支の限られた範囲の中でしか整備ができない。 ・今、アクアイグニスと地下鉄東西線荒井駅間で自前のシャトルバスを運行しているが、1時間に1本のバスを運行するのがやっとで、これでも運行に数千万の費用がかかる。利用者が少なくなれば、撤退も今後考えていかないといけない。2次交通の整備も含めて、何を作るのかの前に、集客をするための整備にまず力を入れていただきたい。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ、下水道や2次交通、横断歩道等は、お客様が入ってきて、はじめて不都合な部分がしっかりと見えてきたという貴重なお話であった。 ・東部地区は他にも同じ状況だと想像できる。全体的に集客のためのインフラが未だ整備が難しい状況で、今回の検討会の中で解決の道筋をつけていかないと、人を集めるのは厳しい。
平館委員	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台河川国道事務所は今回2回目の勤務で、前回の平成25～27年までの勤務では、名取川・阿武隈川の調査、河口部の復旧、海岸堤防整備、二線堤の整備を担当し、当時海岸堤防計画について、藤塚の皆様説明に伺ったのを記憶している。 ・その時期は閑上のかまちづくりの計画策定・事業化のタイミングで、計画についてはほぼ行政機関の方で計画した内容になっており、事業実施段階になってから、櫻井さんはじめ、まちづくりの専門の学識の皆様からの意見をいただいた。当初の計画では店舗は堤防の下に整備をして、堤防上には仮設的なも

	<p>のにおいての営業を想定していたが、それでは集客が進まないというご意見があり、現状の姿となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の検討会においては、当初から民間の皆様に入っただき、自由に意見をいただいて、計画を策定すればさらに良いものになると思う。 ・我々は今、流域治水とって、川の中だけをみて河川事業をするのではなく、河川側で持ちきれないものは流域の方でも保水をしていただくなど、色々なことを含めて検討をしており、こういった中では、地域の皆様のご意見を伺い、計画を作っていくことが非常に大事だと考えている。 ・かわまちの計画づくりにおいても、地域住民、生業の皆様の意見は非常に大事であるため、皆様から頂いた意見は、少しでも多く計画に入れ込めるよう、柔軟に考えていきたい。 ・先ほど平間委員からいただいたご意見も、直接は回答できないが、関係機関と会話する機会でご意見を伝え、お応えできる範囲で対応したいと思う。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・力強いお言葉をいただいた。 ・ぜひ国の機関の方にもよろしくお願ひしたい。
渡邊委員	<ul style="list-style-type: none"> ・名取市の主な観光振興の取組みとして、閑上朝市、サイクルスポーツセンター、かわまちてらすなどの観光施設が集積する閑上地区を中心とし、観光コンテンツの充実やイベントの開催などに取組んでいる。 ・かわまちコンテンツの一つである舟運事業は、今崎委員と連携して平成30年度から取組んでいる。令和4年からは貞山運河を通る新しいルートを開けて、来月7日に運行を開始する予定。 ・名取市では自転車を活用したまちづくりを進めており、令和2年にサイクルスポーツセンターが開業し、毎週末多くのサイクリストが名取市を訪れるようになった。市では昨年度、閑上地区を中心に市内の回遊性を高めることを目的に、市内の公共施設、飲食店にサイクルポートを設置したり、サイクリングコースを設定したり、マップを作ったりという取組みをしてきた。 ・今後は名取市だけではなく、仙台市の施設と自転車や、将来的には船で連携していきたい。地域で唯一の宿泊施設であるサイクルスポーツセンターについては、今年度、閑上や仙台市沿岸部の宿泊の連携プランも考えており、その際はぜひご協力、連携をお願いしたい。 ・最後に、藤塚地区は非常に自然豊かな地域だという印象を受けた。名取にはトレイルセンター、八戸から相馬までのトレッキングコースが設定されており、船、自転車に加えて、ウォーキング、トレッキングも移動方法のひとつとして考えられるのではないかと思う。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・環境省の潮風トレイルは名取のセンターが主要な拠点施設となっており、そこから南北に全長1000kmを超えるルートが延びている。その一部として活用するという考えも大事である。
奥山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市は観光交流の面から、今年3月に仙台の交流人口ビジネス活性化戦略を策定した。今年度を初年度とする3年間の計画で、コロナ禍においても何とかして人をお招きし、人を動かしていく戦略であり、仙台市のエリアを大きく3つに分け、エリア別のブランディングをしていくねらいを定めている。 ・その中のひとつが海岸を中心とする東部エリアであり、震災の記憶を伝えていくとともに、自然を活かし、地域の資源を活かすことをねらいとしているが、単独の市町村では難しく、民間事業者の皆様との連携も必要。

	<ul style="list-style-type: none"> ・検討会の議論の中でも、一緒に連携してやっていく糸口をつかみながら、東部エリアの活性化につなげていきたい。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・震災前から、東部地区の観光活性化については、調査検討委員会があったが、改めて仙台市の観光部門でも検討していただけるとありがたい。
川邊委員	<ul style="list-style-type: none"> ・この4月に若林区、宮城野区の各まちづくり推進部において、海浜エリアの活性化や貞山運河の利活用についての部署が創設された。貞山運河については市長の公約でもふれられており、重要な資源である。海浜エリア全体の価値を高めていくことが問われている。 ・これまで、若林区を中心に「仙台海手ネットワーク」という組織をつくっており、情報交換や発信事業を試みてきたが、新しい組織になったことを踏まえ、少し力強く進めて行きたいと思っている。 ・近々でやらなければいけないことが2点あり、一つはエリア全体のビジョン、全体像を整理していく作業、二つ目は回遊性を高めるための、楽しみながら移動できる手段の検討である。ビジョンの全体像については、新たに壮大なものをつくるのではなく、今活動されている民間の皆様と目指すところを共有し、心を一つにしたいと考えている。 ・民間の力をつなげる上で、回遊性が焦点になると思われるが、アクアイグニスと対岸のかわまちてらすとの連携・交流など、海岸公園の整備事業にかわまちづくりの付加価値をつける形で実施することで、この場での検討成果を、藤塚地区はもちろん、海浜エリア全体の発展の起爆剤につなげていくというのが大きな役割だと思っている。
大黒委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度、百年の杜推進部としてひとつ大きいのは、来年度実施する緑化フェアの部署が独立し、かつ公園課が、公園を整備する部署と管理する部署に分かれたことである。 ・東部沿岸の公園整備については、海岸公園の復興計画をベースに動いている状況で、その中で藤塚地区はネイチャーゾーンとしての位置づけの中で動かしていくことになっている。 ・今回の検討会を通じて、皆様からのご意見を活かしながら、公園整備とかわまち事業とをつないで、東部沿岸の一つのピースとして、良い公園の整備ができるようにやっていきたい。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・マリンメカニックの今崎社長、皆様のお話を聞いて、ご意見、感じたことがあればコメントをいただきたい。
今崎委員	<ul style="list-style-type: none"> ・先週、藤塚地区に船で行ってきたが、一番干潮の時間帯をねらったところ、水深が浅く、船が入っていけない状態で、そのあたりの整理も必要だと感じた。 ・貞山堀は整備されておらず、がれきもあった。今後栈橋同士が繋がっていければ楽しい事業になると思う。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・水の中は道路と違い見えないため、実際に船を動かしてみないと状況は分からない。ぜひ、その状況を事務局や皆様の方へお伝えしていただきたい。
櫻井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・観光庁の補助金は、対象者は地方自治体となっており、仙台市、若林区も申請ができる。行政はぜひ積極的に申請してもらいたい。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・事務局の方で何かコメントはあるか。
阿部公園整備課長	<ul style="list-style-type: none"> ・藤塚地区でにぎわいを生み出すアイデアがあれば、お聞きしたいというのが今の実情である。今出ているのがSUP、渡し船、自然観察ができるような小屋

	<p>などだが、名取市の事例も踏まえ、他に何か良いアイデアがあれば、少しでも引き出してもらいたい。</p>
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・にぎわいに関わるような、何かアイデアがあるか。
東海林委員	<ul style="list-style-type: none"> ・閑上大橋北側の河川敷は以前畑だったが、震災後原野のようになっている。大半は私有地となっており、国交省に買い上げてもらえないかという意見も前から出ていた。年数が経つほど将来買収する時に苦労されることが想定されるため、少しでも早く対応して欲しい。 ・貞山堀、自転車道、船溜まりの近くに橋があるが、橋の脚が沈んで危険な状態。今年度解体工事をするという話だったが、事故が起きる前に、少しでも早く撤去していただきたい。 ・貞山堀と名取川が接続するところは、干潮時には船の底がついてしまうため、定期的に浚渫が必要。通れるようにしっかり整備した方が良い。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の現状を皆様とお話していると、課題を把握して整理をしていくことも重要と感じる。
櫻井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・仙台市、名取市、岩沼市の方たちで、ドローンで貞山運河に隣接する産業施設、歴史的なものをぜひ情報発信していただきたい。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・今回自己紹介を兼ねて色々とお話をいただき、貴重なお話を伺えた。 ・閑上地区ではかわまちてらすの背後に住宅地があり、多くの方がお住まいで、住民の方がかわまちてらすに釣りにきている。なおかつ、観光客がおいしいものを求めてやって来ていて、人の暮らしが戻り、川と人が親しんでいるのが素晴らしく、良い景観である。 ・一方で、藤塚は人が住めない地区として指定されており、今後、市街地が整備される可能性はほとんどない。元からの自然や運河を上手に整備して、アクアイグニスなどの新たな集客交流施設とともに、名取市側とは違うテイストのにぎわいをもってくるのが大事だと思われる。 ・その時に、東海林委員のお話の中であったのが、景色、景観についてである。アクアイグニスの近くで草が生い茂っている状態だと、寂しく感じてしまうということであった。自然を大事に整備していく時に、お客さんから見える景色が自然豊かなものとして調和し、見せ方がアイデアとして張り付いていかないと、寂しいばかりのエリアになってしまう。豊かな自然環境のポテンシャルは井土浦を含めてあるが、そこをどうデザインしていくか、名取市側とは違う考え方で、豊かな自然を保全し、再生していくことが求められる。 ・道路整備等、お客さんが立ち寄りやすい整備をしっかりと行うことが、仙台市側の重要なポイントである。 ・同時に、東海林委員のお話の中で、元々お住まいであった方たちが「ここが藤塚なのか」と感じたという話があった。思い出の“よすが”がほぼ無くなってしまって、元々いらっしゃった方たちが寄ってみたい、「こうだったよね」と想起したりする“よすが”の整備も必要と考える。 ・今日皆様の貴重なお話を伺い、ボートでいろいろな所にいけるといいう、東北の中でも例のない仕掛けを、この場所でできるというのは素晴らしいことだと思う。ぜひ、そのような整備も進めてもらいたい。
平館委員	<ul style="list-style-type: none"> ・整備メニューとして考えた時に、この場で議論すべき対象区域は、資料1ページ目の緑で染めているエリアになるが、かわまちづくり計画は、オープン化を目指す区域として考えていただいた方が良くと思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・オープン化を図れば、向こう 10 年占有者が自由に利活用できるが、通常占有となると手続きが多少面倒になる。 ・例えば貞山運河をみたときに、七北田川まで全域で利活用を図りたければ、そのエリアを含めたかわまちづくり計画として欲しい。次回以降は、オープン化を目指すエリアをどう設定するかも議論していただきたい。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・オープン化というのは具体的にどういう意味か。
平館委員	<ul style="list-style-type: none"> ・通常、我々河川管理者が厳密に許認可するところ、皆様と話し合っ、オープン化すれば、都市地域再生等利用区域を設定し、占有者が自由に使える形となる。 ・占有者については、市が包括占有というやり方や、この中で協議会をつくり、協議会が占有ということも可能である。
宮原座長	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の議論の範囲のヒントになったと思う。 ・他に意見がなければ、進行を事務局にお返しする。
阿部公園整備課長	<ul style="list-style-type: none"> ・以上で第 1 回藤塚地区にぎわいづくり検討会を閉会する。 ・次回の検討会は現地視察も含め、6 月下旬から 7 月上旬に予定している。
	(閉会)